

地元でお金を廻そう！

地方創生とか地域経済の活性化とかまちづくりなどの議論の場でよく耳にするのが、「地域でお金を廻そう」とか「地域での経済循環」といった言葉です。しかし、実際にどのくらいのお金が廻っているのかを示す指標は世の中に存在しないということが分かりました。ならば、作ってみたいと思いました。地域経済を下支えする中小企業による地域総合経済団体を自任する商工会議所として、「地域でお金を廻そう」と言いながらその量を計る指標がなければ、その言葉は単なるスローガンに終始してしまうと思ったわけです。ある政策や事業を実施した成果、どのくらいのお金が地域に残り、また次のサイクルへ使われるのかが分からなければ、PDCAを廻していくことはできません。単なる統計的な経済指標ではなく、例えば、まちづくりの効果測定にも使えるような指標ができないものかと思案を続けておりました。しかしながら、経済の現場にいるとは言え、経済学の専門家ではない私どもにとって、それは手に負えない難題でありました。このたび、日本銀行横浜支店とリコー経済社会研究所のご指導とご協力を得、当所の7つの部会と役員にあたる議員の有志からなる勉強会での議論を経てまとめたレポートを発表いたしました。

もとより、地域での経済活動の全てを詳細に正確に捉えて数値化することが目的ではなく、あくまで、地域経済の現場で実施した施策によって地域で回るお金が増えたのか減ったのかを示す指標を炙り出そうという試みです。その結果 13%という数字と併せ、地域で回るお金を増やすには次の6つのことが重要だと分かってきました。(当たり前と言えば当たり前のこともあります)

1. 雇用が重要（地元の人を雇って給料を支払う）
2. 地元企業の育成・成長が重要
3. 地場産比率の引上げも有効
4. 定住人口の増加が好循環につながる
5. 公的セクターの寄与は大きい（集めて税金はできるだけ地元で使ってもらう）
6. 観光も重要（域外からの来訪者にお金を落としてもらう）

これを道具として活用し、地元で廻るお金を増やす施策を考えていきたいと思えます。

*詳しくはレポートの全編が当所のHPに掲載されていますので、ご覧ください。

<http://www.odawara-cci.or.jp/global-image/units/upfiles/5434-1-20160126105541.pdf>

会頭 鈴木悌介